

Ⅱ 施 策

第二次富士市教育振興基本計画で掲げる方針に基づき行う本年度の取組について記載しています。

【方針 1】 明日を拓く人材を育成する教育基盤の推進

【方針 2】 学びを楽しみ、輝く子どもの姿を実現する学校教育

【方針 3】 生涯にわたって学び続ける「ふじの人」の育成

【方針 1】 明日を拓く人材を育成する教育基盤の推進

〔施策の柱 1〕 新たな時代に対応する取組の推進

本年度は、第二次富士市教育振興基本計画（令和 4 年～令和 13 年度）に基づく教育行政の実施 5 年目に当たり、重点施策を確実に前進させる重要な年となります。AI 技術の急速な発展、進行する少子化、国際情勢の不安定化など、社会は一層予測困難となり、いわゆる VUCA¹の時代とされています。同時に、誰一人取り残さない教育の実現、少子化による学校規模の縮小、老朽化施設への対応など、教育現場が直面する課題は多岐にわたり複雑化しています。こうした状況の中で、子どもたちが主体的に未来を切り拓き、幸せに生き抜くために必要な力を育むことは、教育に課せられた大きな使命であり、本市として「今、できること」を確実に実行していく必要があります。

新たな時代を生き抜く子どもたちには、自分のよさや可能性を理解し、他者を尊重しながら協働し、ウェルビーイング²を創り出す力が必要です。また、これからの社会では生涯にわたって自ら学び続ける姿勢も不可欠です。本市では、こうした資質・能力の育成につながる教育基盤の強化に、引き続き取り組んでいきます。

このため、各学校では昨年度更新した GIGA タブレットをはじめとする ICT 機器を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図ります。また、各学校での良い実践を共有して、教職員の ICT 指導力を高め、教職員が生成 AI を活用するための基礎知識を習得し、段階的に情報活用能力を育む授業の研究を進めます。

小中一貫教育³については、令和 6 年度から全中学校区で取組が本格的に開始され、着実に根付いてきています。本年度も引き続き、小中の学びを切れ目なくつなぎ、小小連携を一層充実させ、学校・家庭・児童生徒・教職員が協働する豊かな教育活動を推進します。子どもの成長を支えるため、発達段階に応じた適切な支援を行うことで、幼児教育から小学校、そして中学校へと滑らかに繋がるようにします。

学校と地域の連携では、コミュニティ・スクール⁴全校導入から 3 年目を迎え、制度への理解を深めるために、CSD⁵（コミュニティ・スクール・ディレクター）や教職員、学校運営協議会委員への研修の充実を図ります。地域の声を生かした学校づくりや地域との協働活動について研究し、CSD 定例会で地域の特色を踏まえた活動についての情報を共有し、よりよい連携を目指します。

¹ VUCA とは、Volatility（変動性）・Uncertainty（不確実性）・Complexity（複雑性）・Ambiguity（曖昧性）の頭文字を取った造語で、社会やビジネスにとって、未来の予測が難しくなる状況のことを意味する。

² 個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念のこと。

³ 小・中学校同士で情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す小中連携教育のうち、小・中学校で目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を行う教育

⁴ 学校と地域住民、保護者の協働による学校運営が可能となる「地域とともにある学校」を実現するための仕組み

⁵ コミュニティ・スクールの運営や学校種間の調整、分野横断的な活動の総合調整など統括的な立場で調整等を行う地域人材

また、子どもや地域、学校の様々な実践を積み重ね、その成果を確かめながら、地域とともにある学校づくりを推進していきます。

一方で、少子化による学校規模の縮小や施設の老朽化への対応は喫緊の課題です。持続可能な教育環境の確保に向け、本年度は小中学校の適正規模・適正配置の基本方針を見直し、学校再編に関する議論を進めていきます。このことについては、地域の意見を踏まえつつ、将来を見据えた検討を丁寧に行っていきます。

また、市立高校についても、「富士市立高等学校在り方審議会」を設置し、今後の在り方についての検討を進めます。

部活動の地域連携・地域展開については、令和7年度に策定した基本方針に沿って、中学生が自分がやりたいことに参加できる環境を段階的に整備していきます。本年度は、認定地域クラブの認定を推進し、休日の活動について、準備が整った種目・活動から地域に展開していきます。

さらに、第二次富士市教育振興基本計画の後期実施計画の策定に向け、これまで積み重ねてきた成果を確認しつつ、今後の5年間を形づくる計画を着実にまとめていきます。

各施策の重点事業（☆新規事業）
<p>【施策①】 Society5.0⁶に対応する教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ GIGA タブレットをはじめとした ICT 機器を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、深い学びにつながる授業を実践する。 ・ 各学校の実践を共有する場を設け、教職員の ICT を活用した指導に関する資質向上を図る。 ・ 教職員が生成 AI を活用するための基礎知識を理解するとともに、児童生徒が生成 AI を学習に利用しメディアリテラシーを育成するための研究を進める。
<p>【指標に関する取組】 教員のニーズに応じた情報教育研修会の充実 【指標】 教員の ICT 活用指導力の状況において、「できる」「ややできる」と回答した教員の割合 【R7 実績/ R8 目標】 88.4%/ 100%</p>
<p>【施策②】 学びの連続性を意識した教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各中学校区で特色ある小中一貫教育を進めるため、授業づくりの他、小中学校で一緒にできる共通の取組（軸となる取組）で協働を図る。 ・ 児童生徒・教職員の小中の協働活動や小中合同行事など、施設分離型での取組や成果を学校だよりやウェブサイト等で広報し、小中一貫教育の周知につなげる。 <p>☆「富士市の架け橋プログラム」⁷について教職員の理解が進むよう、研修会などを通してリーフレットを周知し、園小の連携の充実を図る。</p>
<p>【指標に関する取組】 教職員同士の協働による、連続性や系統性のある学習支援や生徒支援の充実 【指標】 小中を一貫した教育活動が、子どものよりよい学びと生活につながっていると感じる連携推進員の割合 【R7 実績/ R8 目標】 100%/ 100% 【追加指標】 小中を一貫した教育活動が、子どものよりよい学びと生活につながっていると感じる教職員の割合 【R7 実績/ R8 目標】 89.4%/ 100%</p>

⁶ サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会。情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、国の第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。

⁷ 子どもに関わる大人が立場を越えて連携し、架け橋期（義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間を指し、幼児教育と小学校教育をつなげる時期）にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子どもに学びや生活の基盤を育むことを目指すもの

【施策③】地域とともにある学校づくり

- ・コミュニティ・スクールへの理解を深め、制度をより有効に活用するために、学校運営協議会会長をはじめ、学校運営協議会委員や教職員への研修を充実させる。
- ・地域の声を生かした学校づくりや地域の力を学校の教育活動に活かすこと、子どもの地域行事への参画等、地域学校協働活動の促進について研究を進める。
- ・CSD 定例会を開催し、地域の特色に応じた取組等の情報を共有し、学校運営協議会の円滑な運営や熟議の充実、地域と学校の連携・協働の在り方について研究を深める。
- ・地域とともにある学校の子どもや地域、教職員の具体的な姿の記録を蓄積し、成果の実感を積み重ねる。

【指標に関する取組】

コミュニティ・スクールの充実

【指標】「コミュニティ・スクール等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まったか」に、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した学校の割合

小学校【R7実績/ R8目標】100%/ 100%

中学校【R7実績/ R8目標】100%/ 100%

その他の事業

☆小中学校適正規模・適正配置基本方針の改定及び学校再編計画の策定

☆部活動地域連携・地域展開に向けた体制整備等

☆第二次富士市教育振興基本計画後期実施計画の策定

☆富士地区の高校再編を見据えた「富士市立高等学校在り方審議会」の設置

・教育委員研修（今日的な課題研究、学校・教育視察等の視察）の実施

・教育委員会広聴事業「ふじの教育懇談会」の実施



教育委員研修
(学校訪問)



教職員と語る会

〔施策の柱2〕 誰一人取り残さない社会を目指した教育の充実

私たちを取り巻く社会情勢や教育環境は、急速なデジタル化や生成AIの普及、国際化の進展などにより大きく変化し、より良い社会を多様な他者との協働の中で創り出していくことが求められる時代へと移り変わってきました。このような中、一人一人が未来を拓く力を身に付け、誰一人取り残さない社会を目指した質の高い教育の実現が重要となっています。

そこで、SDGs⁸未来都市である本市では、輝く未来を拓く人を育むため、民間企業と教職員が協議を行い、共同で作成した「子ども社会体験科『しくみ～な ふじ⁹』」を導入し、社会の仕組みを体系的に学ぶ学習活動を通して、「自分と社会の幸せを両立し、しなやかに生きる力」、「地域社会・経済の担い手となる意欲」などを育てていきます。本年度は、導入校を増やし小学校5校、中学校5校で実践予定です。

特別支援教育については、発達に課題がある子どもやその保護者の困り感に寄り添い、きめ細かな支援を行うため、特別支援教育センターを拠点に、専門職による学校訪問支援や保護者相談、巡回学習相談員による保護者・学校支援、関係機関との連携の充実を図っていきます。また、通常学級に在籍する個別の支援を必要とする児童生徒が、通級指導教室¹⁰での指導をより受けやすくなるよう、計画的に自校通級¹¹を拡充していきます。さらに、特別支援に関する専門的知識や指導法等を学ぶ研修を充実させることにより、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導や支援ができるようにしていきます。今後も特別支援サポート員¹²や生徒指導サポート員¹³を学校の規模や児童生徒の状況を考慮して配置していきます。

多様性を尊重する社会意識の高まりや外国にルーツを持つ児童生徒の増加を受け、在籍校での支援を一層充実させるとともに、吉原小、富士見台小、田子浦小に設置した国際教室については、週5日の開級を継続します。さらに、昨年度までのポルトガル語、スペイン語、ベトナム語、中国語、フィリピン語の支援に加え、本年度は新たにフィリピン語支援員を1人増員し、個別指導を実施することで、一人一人に応じたきめ細かな日本語指導や教科指導の充実を図っていきます。併せて、来日間もない児童生徒への初期支援を行い、どの子どもも不安なく安心して学校生活を送れるよう努めていきます。

また、近年、子どもの数は減少している一方で、不登校児童生徒数は増加しており、こうした子どもへの支援が急務となっています。

すべての子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、富士第二小学校に開設した校内教育支援センター「ほっとルーム」が有効に機能していることが検証できたため、本年度は、吉原小学校と青葉台小学校にも新たに校内教育支援センターを設置し、子どもが校内で安心して過ごせる環境づくりを進めていきます。

さらに、家庭内で孤立した子どもへの支援も重要な課題です。このため「ステップスクール・ふじ」では、安心して過ごせる居場所と多様な学びの機会を保障し、自分のペースで社会的自立

⁸ SDGsとは持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）のこと。2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際社会共通の目標

⁹ 学内授業と学外体験施設での社会活動を通して世の中の仕組みを学習すること。

¹⁰ 通常学級に在籍し、授業の中で困難さを感じている子どもに対して、一部の授業を別の教室で個に応じた教育課程に基づいた内容で受ける制度のこと。

¹¹ 通級指導教室が設置された学校に在籍する子どもが、自分が在籍する学校の通級指導教室に通う形態

¹² 通常学級で特別な支援を必要とする児童生徒の対応に当たる特別支援教育サポート員と、特別支援学級に配置される特別支援学級サポート員のこと。看護師資格や介助員の資格を持ったサポート員も含む。

¹³ 主として中学校に配置されるサポート員。不登校生徒の対応や通常学級で困り感を持っている生徒の対応などにあたる。

を目指せるよう支援していきます。若者相談窓口「ココ☆カラ」では、困難を抱える若者とその家族に対し、医療・教育・福祉が連携した切れ目のない支援を行い、主体的な社会参加を後押ししていきます。

各施策の重点事業（☆新規事業）
<p>【施策①】SDGs達成に向けた取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> SDGsに関するテーマを教科等横断的にカリキュラムへ組み込み、持続可能な開発目標への理解を深め、実践に結びつけていく。 子どもたちがSDGsを「自分ごと」として捉えられるよう、各教科等において積極的に取り組む。 地元企業と連携し、SDGsの視点を取り入れた学習を深めることで、持続可能な社会の担い手を育成する。 民間企業と協働で、社会の仕組みを体系的に学ぶ「子ども社会体験科『しくみ～な ふじ』」の実践を広げる。 学校図書館において、SDGs関連の資料の整備し、探究学習で活用できる環境をつくる。
<p>【指標に関する取組】 <u>SDGsの達成に向けた教育活動の充実</u> 【指標】「地域や社会をよくするために何かをしてみたいと思いますか」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合 小学校【R7実績/ R8目標】79.9%/ 90% 中学校【R7実績/ R8目標】72.5%/ 80%</p>
<p>【施策②】特別支援教育の充実</p> <p>☆自校における通級指導教室（自校通級）を計画的に拡充し、通常学級に在籍する児童生徒の困り感に寄り添い、適切な支援を行う。（R8から開設の自校通級：富士中、岩松北小、伝法小）（既存との合計：言語通級¹⁴が3校、発達通級¹⁵が小学校13校、中学校10校）</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級担任、通級指導教室担当者を対象とした研修の充実を図る。夏季研修会では、小中学校教員の特別支援教育に関する理解を深める。 巡回学習相談員を配置し、通常学級に在籍する個別の支援が必要な児童生徒に、それぞれの状況に応じた教育的支援の充実を図る。 特別支援教育サポート員・特別支援学級サポート員等の適切な配置や研修による個別支援体制の充実を図る。 特別支援教育センター専門職による小1訪問支援や、ひらがな音読支援（1年生）における指導の充実を図る。
<p>【指標に関する取組】 <u>特別支援サポート員の研修の充実</u> 【指標】特別支援サポート員等の研修満足度（5段階評価の平均値） 【R7実績/ R8目標】4.7/ 4.7</p>

¹⁴ 言葉の発達が遅かったりや吃音があったりなど、話し言葉に困り感をもつ児童が、個々の実態に応じた個別の指導を受けることができる教室

¹⁵ 人とうまく関われなかったり、漢字がなかなか覚えられなかったりなど、生活面や学習面の一部に困り感をもつ児童生徒が、個々の実態に応じた個別の指導を受けることができる教室

<p>【施策③】 外国人等の児童生徒への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国にルーツを持つ児童生徒が安心して学校生活を送り、中学校卒業後の進路にも前向きな希望を抱けるよう、特に日本語指導を必要とする児童生徒への支援の充実を図る。 ・初期支援や訪問支援、国際教室での支援がより温かく質の高いものとなるよう、外国人児童生徒支援員への研修を進める。 <p>☆新たにフィリピン語支援員を1人増員し、支援を必要とする児童生徒への個別指導を実施することで、一人一人に応じたきめ細かな日本語指導や教科指導支援の充実を図っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語翻訳機の拡充により、外国籍等の児童生徒への支援をさらに充実させる。
<p>【指標に関する取組】</p> <p><u>個に応じた日本語指導、学習指導の充実</u></p> <p>【指標】 日本語指導が必要な児童生徒に対する「特別の教育課程」実施の割合</p> <p>【R7実績/ R8目標】 79.5%/ 80%</p>
<p>【施策④】 学びのセーフティネットの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ほっとデジタル相談・ふじ」により、多様な悩みや不安を丁寧に受け止め、寄り添う相談体制の充実を図る。 ・「ステップスクール・ふじ」では、居場所と多様な学びの権利を保障し、最善の利益を尊重した支援を通じて、主体的な社会的自立を目指せるよう支援する。 <p>☆昨年度、富士第二小学校に設置した校内教育支援センターに加え、吉原小学校、青葉台小学校に校内教育支援センターを増設する。</p>
<p>【指標に関する取組】</p> <p><u>「ステップスクール・ふじ」の相談業務や運営の充実</u></p> <p>【指標】 ステップスクール・ふじを利用した中学3年生のうち、自分なりの進路が見いだせた割合</p> <p>【R7実績/ R8目標】 100%/ 100%</p>
<p>その他の事業</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者教室、合同相談会の開催 ・富士市若者相談窓口「ココ☆カラ」の運営 ・困難を抱える若者やその家族を支援する人材「若者サポーター」の育成



「ステップスクール・ふじ」スプリングコンサート



「ステップスクール・ふじ」ブーメラン作り

〔施策の柱3〕 安全・安心で充実した教育環境の提供

学校施設の延床面積の約6割が、築40年以上の建物で、かつ、改修を要する状況であり教育面・安全面での老朽化対策が急務となっています。また、小中学校の施設は、災害発生時の避難場所など地域防災の拠点的機能としての重要性が年々高まっており、学校施設には地震や豪雨などの自然災害発生後も使うことのできる強靭さと高機能化が求められています。

一方で、厳しい財政状況を踏まえ、財政負担を平準化し、中長期的な維持管理費の削減を図るため、「富士市学校施設長寿命化計画¹⁶」に基づき、長寿命化改修等を確実に進めているところです。

本年度も、引き続き校舎の屋上防水、外壁改修、トイレ改修、校舎内部改修及び屋内運動場のリニューアル改修などの長寿命化改修を実施していくほか、衛生的な環境を確保するため、給食室へのエアコン設置を段階的に進めていきます。また、老朽化した田子浦小学校の校舎については、令和7年度に検討した基本構想を基に、田子浦中学校敷地内へ統合するための基本設計をしていきます。

また、吉原第一中学校では、老朽化した南校舎を解体し、武道場を新築するための準備を進めていきます。

なお、本年度以降における学校施設長寿命化の実実施計画については、「富士市公共施設マネジメント基本方針¹⁷」と整合性を図りながら見直していきます。

さらに、誰もが安全に安心して学校施設を利用できるように、段差解消のためのスロープ整備やバリアフリートイレを設置していきます。

各施策の重点事業（☆新規事業）
【施策①】安全・安心な学校施設整備の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・避難場所である学校の屋内運動場にバリアフリートイレを設置する。 ・小学校1・2年生用トイレの洋式化を行う。 ・児童生徒用トイレの洋式化、乾式化、非接触型水栓の設置等の改修を行う。
【指標に関する取組】 <u>トイレの洋式化やバリアフリートイレの設置推進</u>
【指標】バリアフリートイレの設置率 【R7実績/ R8目標】95.0%/ 100%
【施策②】より良い教育環境の維持・整備
☆衛生的な環境を確保するための給食室へのエアコン設置を段階的に実施する。（岩松北小、吉原第一中、吉原第三中、富士中） <ul style="list-style-type: none"> ・校舎や屋内運動場の屋上・屋根防水や外壁改修を行う。 ・教室の床・壁・天井などの内部改修を行う。 ・学校施設長寿命化計画について見直しを行う。
【指標に関する取組】 <u>学校施設ごとの長寿命化計画に基づいた施設の維持改修</u>
【指標】長寿命化計画の進捗率 【R7実績/ R8目標】80.8%/ 100%
その他の事業
☆令和12年4月の供用開始を目指し、田子浦小学校校舎の改築基本設計を実施
☆吉原第一中学校に武道場を新築するため、南校舎を解体
・遠距離通学をしている子どもたちへの通学支援（スクールタクシー等）の実施

¹⁶ 学校施設の長寿命化に必要な改修等の内容、時期、費用等を示し、長期的な財政負担の軽減・平準化を図り、施設整備を実施するための計画

¹⁷ 本市における公共施設等の総合的かつ計画的な管理を推進するための基本的な指針として位置付けるとともに、地方における行動計画である「公共施設等総合管理計画」に相当するものであり、「富士市学校施設長寿命化計画」の上位計画である。